

機械遺産 を巡る旅

vol.8

1937(昭和12)年に東京市蒲田区で創業した「株式会社新興製作所」は、卓越した技術力により機械式通信機器分野において、国内のトップメーカーとして戦後復興期の情報通信を支えた。今回は現代の情報伝達の基礎となった機械式通信機器にスポットを当てて紹介する。



現代、多くの情報は電子メールに代表される様々な電子情報伝達媒体を通じて瞬く間に高速処理されている。光ファイバー、そしてADSL。通常の電話回線から専用回線まで有線無線を問わず、これらの存在なしにはや国民生活は成り立たないと断言しても過言ではない。そしてこの種の情報伝達手段においてルーツとされるのは江戸時代末期にベリー艦隊によってもたらされた手動式有線電信機であることは言うまでもない。

これら有線電信機は明治、大正、昭和と時代を経るに従って進化を重ねたものの、基本はあくまでモルス信号の送受信をオペレータが完全手動で行うというシステムであった。すなわち受信側は送信側が打った信号をオペレータが耳で聞き取り、手書きで記録した上で解読し文章にまとめるという非常に手間がかかる上に、オペレータの技量差に伴う人為的なミスに常に晒されていたことは否定できなかった。こうした

問題を解消すべく、電信文字の自動印字送受信を可能としたテレプリンターの国産商品化に乗り出したのが、1937(昭和12)年に東京市蒲田区において創業した新興製作所だった。同社を創立した谷村貞治氏は既に1931(昭

和)年にはテレプリンターの原型とも言えるクラインシュミット形鍵盤さん孔機の試作製造に成功しており、満を持しての法人化だったのである。新興テレプリンターはその後数年に渡って熟成に務め、太平洋戦争中に完成したモデルは一部実用化されたものの、本格的な普及は戦後のこととなった。そのきっかけとなったのはGHQの指示による国内電信網の拡充に他な

らない。新たな通信インフラの構築という意味では絶好の機会だったというわけである。これ以降、新興テレプリンターは機械式通信装置の決定版としてカナ欧文併用式や頁式といった様々な新機能を付加すると同時に日本全国に広く普及することとなった。それまで特殊技能が要求されていた電信が、簡単な講習のみで扱えるようになったことは、まさに情報通信革命だったのである。そしてその進化形こそがダイヤルで相手先を直接呼び

出し、文字通信を行うテレックスに他ならず、テレプリンターの最終進化型である漢字テレプリンターと合わせて機械式通信機器の黄金時代を形成したのである。新興の各種機械式通信機器は現代におけるファクシミリやメールのルーツであり、その歩みは無線電信の進化形である電話の進化と共に後世に伝えるべき産業遺産に他ならない。

機械式通信機器群

クラインシュミット形鍵盤さん孔機、3段シフト式カナ欧文テレプリンタ、加入電信宅内装置(テレックス)など
(岩手県)

和6)年頃にはテレプリンターの原型とも言えるクラインシュミット形鍵盤さん孔機の試作製造に成功しており、満を持しての法人化だったのである。

新興テレプリンターはその後数年に渡って熟成に務め、太平洋戦争中に完成したモデルは一部実用化されたものの、本格的な普及は戦後のこととなった。そのきっかけとなったのはGHQの指示による国内電信網の拡充に他な

Information

株式会社新興製作所

- 住所：〒025-0354 岩手県花巻市大畑9-92-6
 - 電話：0198-26-4311
 - URL：http://www.shinko-exc.co.jp
 - 開館時間：10時～16時(ショールーム)
 - 入館料：無料
 - 休館日：土日祝日、年末年始、お盆
 - 交通案内：東北新幹線花巻駅より車で約15分、花巻空港より車で約7分、花巻ICより車で約3分
- ※見学には事前予約が必要ですので、お問い合わせください



周辺一押し情報

- 9月：花巻まつり
- 9月：石鳥谷まつり
- 10月：農業祭

400年以上前から続き、宮沢賢治も楽しんだ「花巻まつり」



写真提供：株式会社 新興製作所 / 花巻観光協会